

「パワーディスタンス」と「飲みにケーション」

私は、外資系化学会社に勤めています。日本国内の出張で、1週間ずっと、フランス人やアメリカ人の同僚と過ごす機会がありました。奥様を連れてきたアメリカ人同僚とはホテルで分かれ、残ったフランス人ふたりを連れて銀座で夕食。前日飲み過ぎた、という1人は部屋に帰した後、残りのフランス人同僚と、ホテルのバーで1杯だけ、長かった1週間の打ち上げを行いました。

このフランス人同僚。上海の研究所で、25人の部下をかかえています。やはり異文化を感じることが多いようですね。フランス人は、上司と部下の心理的な距離を表す「パワーディスタンス」が大きいのですが、中国人はパワーディスタンスが小さく、「すごく地位の高い上司に、ホテル予約を依頼するメールを送ったりする」と言っていました。これには日本人も驚きますが……ただ、東洋の文化に良いところもあり、日本で言う「飲みにケーション」で会社帰りに部下を連れ出し、日頃は聞けない本音や、個人的な困りごとまで聞けるのが本当に良い、と実感しているようです。このあたりは、洋の東西を問いませんね。(J.T.)



T I F A機関誌 VOL46 2018. 3.15 発行
Takarazuka International Friendship Association
編集：(特)宝塚市国際交流協会 広報委員会

宝塚市国際交流協会（TIFA）は1988年に発足して今年は30年の節目を迎えます。TIFAの存在が、時代に即し会員のニーズに合っているかどうか、委員会の各事業がメリットを与えているかどうか、さらには市民に評価されているかどうか真価が問われる年になるでしょう。市内には多くの外国人が暮らし、日本人と外国人がともに努力し国際性豊かな地域として発展しようとしています。機関誌46号は「多文化共生社会」について多方面から光を当ててみました。

T I F A インフォメーション

事業のご案内

- ◎ 交流や国際理解に関する講演会、セミナー、サマーコンサート、英語サロンなどの国際開催
- ◎ 外国人来訪者向けのホームステイやホームビジットのシステムづくりと受け入れ
- ◎ 日本語の支援、翻訳、通訳などの活動
- ◎ TIFAグッズの作成と販売
- ◎ 外国人が住みやすい街づくり支援と生活相談
- ◎ 外国語教室、料理教室、スピーチ大会の開催
- ◎ 毎月発行のニュースレターやHPの監修
TIFA機関誌の発行・TIFAチラシの作成

募集しています

- ◎ 会員を募集しています。どなたでも加入いただけます。年会費 個人 2,000円
但し 入会金は不要です。
- ◎ 外国からのお客様を受け入れていただくためのホストファミリーを募集しています。
- ◎ ニュースレターや機関誌への皆様のご投稿をお待ちしております。ホームステイや海外での体験、身近な国際交流にまつわる出来事やTIFAへの提言など、どんどんお寄せ下さい。FAXやメールどのような方法でも大歓迎です。

編集後記

◆今回の機関誌46号の表紙を飾っている油絵は、25年前に宝塚市がウィーン市第9区と姉妹都市提携をしたときに、田内豊三氏が「ウィーンの街角」を描かれた作品です。田内氏は宝塚の雲雀ヶ丘山手に在住し、宝塚市展にたびたび出品されて入選しています。表紙の油絵は、現在も宝塚市立国際・文化センターの第2会議室壁面に掛けられていて、会員の皆様には心に残っている作品と思われます。田内氏のご親戚の多くが現在もウィーン市に在住していて、年に何回もウィーンに行っておられます。今年、米寿を迎えられますが、記念して心斎橋で個展を開催される予定です。(K.F.)

★ 広報委員会 ★

安藤 康晴	石原 美生子
内池 滋	奥田 啓子
加藤 啓子	杉本 和子
辻 敦子	寺本 さなえ
徳田 潤	福家 清美
森脇 洋子	和田 芳明



田内豊三 画 「ウィーンの街かど」



目次

多文化共生社会とやさしい日本語	2
多文化共生社会への意識づくりと県の取り組み	4
多文化共生社会への意識づくりと市の取り組み	6
日本語教室、チューターレッスンの学習者実態調査	8
多文化共生社会 日本と海外それぞれの体験	10
多文化共生社会をめざして 異文化相互理解事業	13
国際理解セミナー 田邊隆一先生「激動の東アジアと日本の対応」...	14
コラム&インフォメーション	16

発行者 特定非営利活動法人 宝塚市国際交流協会（TIFA）

〒665-0011 兵庫県宝塚市南口2丁目14番1-3号 宝塚市立国際・文化センター内
Tel：0797-76-5917 Fax：0797-76-5918 URL：http://www.tifa.be/

～無断転載を禁じます～

多文化共生社会と〈やさしい日本語〉

— 〈やさしい日本語〉の極意 —

一橋大学国際教育センター教授 庵 功雄

生活風景のあちらこちらで外国人がかなり目立つようになった宝塚市内。いまや、各地において多言語社会がどんどん進んでいます。市民と外国人が協働して地域づくりに取り組むことは、多文化共生社会の実現のみならず、地域創生の観点から極めて重要です。日本語教育や母語教育をより充実させるには、原点に戻って、まずやさしい日本語について学びましょう。

1. 〈やさしい日本語〉の誕生

今回、「やさしい日本語」について書かせていただくことになりました。読者のみなさんは「やさしい日本語」という語を耳にされたことがあるでしょうか。この語はこのところ少しずつメディアなどでも取り上げられるようになってきました。この小文では、「やさしい日本語」の理念とその「極意」を簡単にご紹介したいと思います。

「やさしい日本語」は1995年の阪神・淡路大震災後初めて使われ、災害時の緊急性の高い情報を、簡単な日本語で出すための方策が考案されました。こうした災害時の外国人に対する情報提供は重要ですが、それと同様に、平時における情報提供も重要です。私たちの研究グループでは、そうした立場から研究を行っています。以下では、私たちの研究を上記の研究と区別して、〈やさしい日本語〉と表記します。



2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

〈やさしい日本語〉には、大きく分けて、「居場所作りのための〈やさしい日本語〉」（主に成人の定住外国人を対象）と「バイパスとしての〈やさしい日本語〉」（定住外国人の子どもたちやろう児を対象）という2つの側面があり、前者には、「初期日本語教育の対象」、「地域社会の共通言語」、「地域型初級」という3つの機能（役割）があります。このうち、ここでは、「地域社会の共通言語」としての〈やさしい日本語〉の機能について述べます。

定住外国人が増えると、外国人と地域の日本人住民の間に共通言語が必要となります。このとき、英語がそれに適さないことが調査でわかっています。つまり、定住外国人の多くは、英語よりも日本語の方ができるということです。

次に、日本人住民が調整を加えない「『普通の』日本語」はどうかというと、これも適切な選択肢とは言えません。それは、こうした見方は、外国人を外国語の運用能力だけで評価するものだからです。もし、私たちが外国に移住することになった際、その国の言語が十分に使えないというだけで無能扱いされたらどのように感じるかを考えてみれば、このことの意味はおわかりいただけると思います。

そうすると、地域社会の共通言語になり得るのは、日本人住民が調整を加えた日本語、すなわち、〈やさしい日本語〉しかないということになります。しかし、これは、放っておけば自然にそうなるということではありません。むしろ、自然に任せておくと、共通言語は生まれず、外国人住民と日本人

住民は理解し得ないという可能性が最も高いと言えます。そうではなく、両者が理解し合えるようになるためには、日本人住民が、〈やさしい日本語〉を使って外国人とコミュニケーションをすることの意義を理解して行動することが必要なのです。次図は〈やさしい日本語〉が地域社会の共通言語になった場合の模式図です。

地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

日本語母語話者〈受け入れ側の日本人〉

↓ コード(文法、語彙)の制限、日本語から日本語への翻訳

やさしい日本語(地域社会における共通言語)

↑ ミニマム(最低限)の文法と語彙の習得

日本語ゼロビギナー〈定住外国人〉

3. 〈やさしい日本語〉で大切なこと 一瞬立ち止まって考えてみよう

ここまで〈やさしい日本語〉について簡単に見てきました。この小文の最後に、〈やさしい日本語〉を考える上での示唆的なエピソードとして、私の大学院の恩師で外国人に対する音声教育の大家であった故土岐哲先生の著書から以下の文章を引用したいと思います。

日本の大手自動車会社の工場長がタイからの技術研修生に会った時、「わたし…じどうチャ…」などと話しているのを聞いて、引率の日本人に、この人達はほんとうに仕事ができるのか」と心配そうに言ったというが、これなどは、「わたし」や「じどうチャ」などという発音の仕方が、日本語では幼児の話し方に似ているところから、勝手に人格や能力の判断にまで結び付けて出された反応であったとまずは解釈できよう。(土岐 2010:242-243)

タイ語を母語とする日本語学習者は「し」を「ち」と発音してしまうことがあります。これは、私たちにとって英語の「r」と「l」の区別が難しいのと同様の現象です。つまり、「言語音(発音)」には本来上下はないのです。にもかかわらず、「わたし」「じどうチャ」という発音を聞くと私たちは笑ってしまいます。その理由は、上に書かれている通りです。

しかし、こうした無意識の行為が実は差別の温床になるのです。それは、「差別」は「区別」に由来するものだからです。〈やさしい日本語〉にとって最も重要なことは、「相手(外国人)が何を言おうとしているのかを理解し、自分が言いたいことを相手に伝えようと努力すること」です。相手を理解しようとする視点があれば、たとえ「わたし」が日本語では幼児語だとしても、大人のタイ人が正式の場面でふざけてそのようなことを言うはずがないことに気づくはずです。そうすれば、その発音を笑うことはなくなるでしょう。

このように、「一瞬立ち止まって考える」ことが、差別をなくし多文化共生社会を作る上での非常に重要な一歩であり、〈やさしい日本語〉の「極意」なのです。

庵 功雄(いおりいさお)先生

1967年(S42)大阪生まれ。大阪大学文学研究科博士課程修了。文学博士、2013年より現職。

専門は、日本語教育、日本語学。著書は、「留学生と中学生・高校生のための日本史入門ー信長から安保法制迄」(晃洋書房)、「新しい日本語学入門(スリーエーネットワーク)他多数。

多文化共生社会への意識づくりと県の取り組みの一環

兵庫県には 154 か国、約 10.2 万人の外国人県民が住んでいて、様々な場面で接する機会が増えています。文化や言語、生活習慣を認め合い、互いに尊重しあう多文化共生社会の実現を目指して、今年で17回目を迎えた研修会の要約です。

【海外・日本の移民と国民の状況】

「ベトナムから見る技能実習制度と実施」 斎藤 善久先生(神戸大学大学院准教授)

I. 外国人技能実習制度

企業の単独型と団体管理型の 2 パターンがある。団体管理型には登録型と入所型の 2 つの類型があり、送り出し機関、管理団体、受け入れ団体の経過を経て就労に至る。

II. 外国人技能実習制度の問題点

- ① 労働条件明示違反
 - ・失踪準備の防止などのため、採用されるまで職種が明示されないまま来日する。
 - ・違法な労働契約の強要などが見られる。
- ② 給与の支払違反
 - ・高額な家賃などで給与が回収されてしまう。
- ③ 組合未組織企業が大半で、組合を通じた交渉ができない。
- ④ 農業労働の問題点
 - ・企業側が 時間外割増に関する農水産省の通達を無視し、法律を知らされていない。
 - ・高齢、小規模農家で過重労働をしいられる。
- ⑤ 職業選択(退職・転職)の自由の問題点
 - ・借金という足かせを負い、最低賃金違反の残業、内職の強要などが見られる。
 - ・問題が起これば強制帰国となり、労災保険未加入、未払い賃金、年金一時金の請求などもできない。
 - ・言葉の壁問題で関係法令へのアクセスが難しく、使用者との交渉、相談、通報ができない。

III. 適正化法と今後の問題

- ・現場を理解しないまま法律が作成されている。

講演を受けて、

技能実習制度とは、従来の外国人研修生の実態を改善するために、2010 年 7 月に法改正が行われ、基本理念のもと、創設されたのが「技能実習(1 号、2 号)」という新たな在留資格である。この資格を使って技能実習生を企業が雇用する際には、最長 3 年間の在留期限や 74 種類の職種制限などの特別なルールがあり、これらのルールを監視するために、法務省、外務省、経産省などの関係省で公益財団法人 JITCO(国際研修協力機構)が設立されている。

宝塚市にも技能実習制度を使って外国人が多く来ており、TIFA の日本語学習などに参加している実態も見られるようになって来ている。国は労働不足を補うために様々な政策を打ち出しているが、講演の中で指摘されているように現場の外国人が不当な労働条件の下で過重労働を強いられないよう、また人権問題などが生じないようにしっかり監視体制の強化が急がれる。

「ヨーロッパにおける多文化主義の“失敗”から、日本の目指すべき国家像を考える」
谷口功一先生(首都大学東京法学系教授)

まずヨーロッパにおける移民・難民の現状から、2011 年のシリア内戦を機に欧州に多くのテロ事件が発生し、欧州難民問題が発生し、欧州の総右傾化の傾向にある。イスラム問題は文

明の衝突であり、移民・難民問題に派生し、ヨーロッパはナショナリズムがデフォルト化(定番化)している。これは多文化主義の限界でもあり、移動の自由における問題、安全保障の問題、政教分離の問題(イスラム教では分離不可)などの理由によりナショナリズムが再興してきている。次に日本の現状について、日系ブラジル人などが自動車産業を中心に静岡県、愛知県、群馬県に多く、特に北関東地方に集中している。大泉町(群馬県邑楽郡大泉町)は全国で外国人の数第一位で、町中ポルトガル語の表記で、ブラジル人専用のスーパーがある。一方で町の中で受け入れ反対問題も論議されている。日系ブラジル人は、1990 年に改正入管法が施行され日系 2 世、3 世とその家族の就労が認められた人たちであるが、2007 年 31 万人の日系人口が帰国支援制度により 2016 年には 17.3 万人に減少している。次に世界各国の移民政策についてであるが、日本の安倍政権は 2014 年に外国人労働者 20 万人受け入れを表明して、高度人材の受け入れ拡大を図っている。

イギリスの場合は多文化主義を掲げて 1950 年から移民増大を図って労働不足を補ったが、70 年代～80 年代にかけて人種問題(コミュニティ指導者の政治参加等)などのプロセスを経て EU 脱退へと繋がった。

ドイツの場合は多文化主義を寛容に受け入れ、トルコ人などが大量に流入したが、市民権を付与し、単身から家族に拡大していきイスラム教徒のコミュニティ作りに発展していくが、近年の大量流入により社会不安が出てきて、右派(AFD)が台頭し、難民への反発やネオナチズムの台頭も見られるようになっている。

フランスの場合は同化主義を取っている。全ての人間の自由・平等を掲げて、同化を強制して来たが、テロが多発し、郊外で人種暴動が多発した。政教分離政策とイスラム教との共存が困難な事例である。マクロンの勝利で右傾化が終了したわけではない。ヨーロッパにおける「多文化主義は失敗」だと、メルケル氏やキャメロン氏も言っているが、多文化主義も同化主義もヨーロッパ社会に崩壊の危機をもたらし、混乱をもたらしたという意味では帰結は同じである。多文化主義の根本的問題として、ジェンダー(性差別)の問題や政教分離主義(立憲主義)との共存が困難であり、多文化主義の寛容の限界が問われている。

日本の多文化主義は神戸市(兵庫県)、川崎市(神奈川県)などから始まり、多文化共生を掲げて統合又は同化主義の形態を取っていると言える。福祉とナショナリズムが密接に関連して一体化していけば共生の可能性はある。コスモポリタンの再配分は不可能と思われる。近年、川上村の外国人技能実習生の労働問題(レタス奴隷と言われる奴隷契約書)が国際的に厳しい批判を浴びた。〔註:統合とは「外国人又は移民が社会保障や住宅、教育の権利が与えられ、当該社会の生活から疎外・排除されることなく、その一員として包摂されること」〔「外国人労働者受け入れを問う」より〕〕

日本の難民の現状について、インドシナ難民、ミャンマー難民、クルド難民(トルコからの難民)があり難民認定法により申請後仮放免となっており、ほとんど不法滞在状態のまま顔の見えない定住化になっている。いちょう団地やクルド難民の蔽市がその例として挙げられる。将来の難民問題は北朝鮮難民への恐れなど安全保障の問題、公衆衛生問題などを引き起こす可能性がある。難民条約は保護又は資金提供を掲げているので日本はもっと資金を出すという選択もあるが、難民問題は子供の就学問題で顕在化して来るので、正面から入国を認め難民保障をしていく必要がある。

講演を受けて、日本は公式には移民を認めていない中で、既に 90 万人以上の外国人労働者を受け入れており移民・難民問題は避けて通れない深刻な問題であると認識した。現状の制度の中で外国人を受け入れる日本人も、ナショナリズムだけでは解決できない人権問題があり、地域社会のなかでの意識変革が必要な時代なのかもしれない。「外国人労働者は単に労働者市場の中の行為者にとどまらず、一人の人間として文化的背景をもち、家族をもち、社会的に生きる存在です。労働者であるだけではなく、住民でもあり、市民にもなっていくのです。」〔「外国人労働者受け入れを問う」より〕と言われるように、我々日本人の社会的、文化的受け入れ態勢が問われる時代が来ているのである。

多文化共生社会への意識づくりと宝塚市の取り組み

多文化共生社会の推進について、兵庫県は平成 5 年度に基本指針を策定しました。宝塚市は、その方針に沿って、取り組んでいます。特徴として多国籍化、高齢化が進んでおり、全国と比べて定住傾向が高くなっていることです。このため、外国人児童生徒の日本語習得などに対する教育支援が高まっています。前半は、市教育委員会の取材と、昨年からは始めている TIFA と市の中学校国際理解教育担当者による合同研修会の報告です。

2017 年 10 月 26 日、学校教育室人権担当平山課長、学校教育課藤山課長、教育研究課今北課長にお会いして、宝塚市の外国にルーツを持つ児童生徒に対してどのような教育や指導についての配慮をしているかの現状について詳しく取材に応じいただきました。

現状

外国籍の児童生徒は(小、中学、特別支援学校)70 名在籍(韓国・朝鮮 48 名、中国 7 名、ブラジル 5 名、ネパール 3 名、フィリピン 3 名、インド 2 名、ロシア 1 名、タイ 1 名)。そのうち支援を要する子どもたちが 28 名(英語 8 名、フィリピン 6 名、スペイン語 1 名、中国語 6 名、ネパール語 1 名、ポルトガル語 4 名、タイ語 1 名、ロシア語 1 名)でした。

取り組み

- 日本語の不自由な幼児、児童生徒サポーター派遣事業
登録制の日本語支援サポーター 29 名(うち TIFA からのサポーター 4 名)。母語支援サポーターと第 2 言語として日本語(生活言語、学習言語)を教えるサポーターにわかれる。内容は、在日 6 ヶ月未満は週 3 回程度、在日 1 年未満は週 2 回程度、在日 1 年以上は週 1 回程度の派遣となっている。日本語習得の度合いにより、授業中別室で母語と日本語での対応もしている。
- ALT(Assistant Language Teacher 外国語指導助手)は、宝塚市に 11 名。
中学校へは 1 人で 1～2 校を担当し週 4 回の派遣。小学校 5、6 年生へは、2～3 校を担当し、週に 1 回派遣される。
- 子ども多文化共生センター(県立国際高等学校内、芦屋市新浜町)
先輩たちの話を聞いて将来へ希望をつなぐ子供もいる。
- 進路を考える相談会(県の事業として年 1 回、宝塚市で開催されている。
- 宝塚市中学生国際交流推進事業(西オーストラリア州、メルビル市訪問)
参加者の OB、OG 会は 1,300 人の関わりがある。

問題点

- ・学校での友人関係、文化の違い、進路についての悩みの課題がある。親の日本へ定住、あるいは一定期間滞在後に帰国するかによって、子どもは落ち着かない。
- ・母語に対する誇りを培ってあげたい。・近所の付き合いに言葉の壁が大きい。
- ・日本語学習事業(TIFA 主催)へは遠くて(宝塚南口駅)参加できない。
- ・進学先は定時制が多い。卒業後が不安定なのが心配。

宝塚市国際交流協会に期待すること

- ・民間大使派遣事業
みんなの先生(ゲストティチャー)としてどんな国、どんな人、どんな話が出来るといふ具体的なリストを毎年 3 月か 4 月に提出していただけるとうれしい。
- ・スピーチ大会・NGO 展
スピーチ大会に宝塚市の外国にルーツを持つ中学生が出場しました。チラシを学校に配布していただけるとよい。各校に国際理解教育担当の先生がいるので連絡をとって NGO 展のチラシも直接に手渡しして話し合っって仲良くなって欲しい。
- ・子どもの来日後、すぐにでもサポーターを配置したいと思っているが、ピンポイントで動けるボランティア(個人面談や家庭訪問の際)が欲しい時どうすればよいか？
- ・共に生きることをめざしているきずなの家事業やこども食堂で地域との関わりも一部ではできて

いる。
様々な課題を伺い、次代を担う子どもたちのために話し合いを深めていきたいものです。

「中学校国際理解教育担当者研修会」に参加して

国際理解教育研究部会副部長
中山五月台中学校教頭 神崎佳代

近年、宝塚市でも外国籍人口が増え、学校に在籍する外国籍の児童生徒やその保護者も少なくありません。また、国際化が進むにつれ、幼少期を日本以外で過ごし、他国の文化背景をもつ子どもも増えてきました。こうした人々に関わる現場の教師として、外国籍の人々が感じる日本での生活への戸惑い、日本文化になじみのない子どもが感じる困難や悩みを知ることが重要だと考え、国際交流協会と合同研修会を開催しました。

中国出身の王芳(ワン・ファン)さんには、日本での生活、子育てにおける体験をお話いただきました。私たち日本人が思いつく日本文化(生活スタイルや言語)はもとより、私たちが当たり前に行っていること(お弁当作り、直接表現よりも曖昧表現を好み、控えめを美德とする習わし)にこそ困ったり、悩んだりされていることに驚きました。

中学校の生活相談員の方々からは、現在サポートしている生徒についてお話いただきました。サポートの難しさはもちろんのことですが、校内での連携や学校全体での情報共有などに学校がチームとして取り組むことの大切さを改めて感じました。今後さらに国際交流協会と学校が連携していけば、よりよいサポートができるのではないかとさまざまな意見が行き交い、大変有意義な研修会となりました。

平和活動家 エラ・ガンジー



インド独立の父マハトマ・ガンジー孫娘のエラ・ガンジーさん(77)が 7 月に来日。ご縁あって宝塚市内で講演されることになり、TIFA 関係者が参加しました。エラさんは南アフリカ共和国 ダーバン在住。核兵器廃絶を訴える平和活動家として活躍されています。講演では、世界の状況と平和について「最も大きな脅威は核兵器。いまだ多くの国が保有し、開発技術も 72 年前とは比べものにならない。世界がより弱体化しているともいえる」と認識を示し、広島・長崎の被爆者が核廃絶を訴え続けたことが、今回の国連本部での核兵器廃絶条約の採択につながったと声を上げ続けることの大切さを訴えられました。

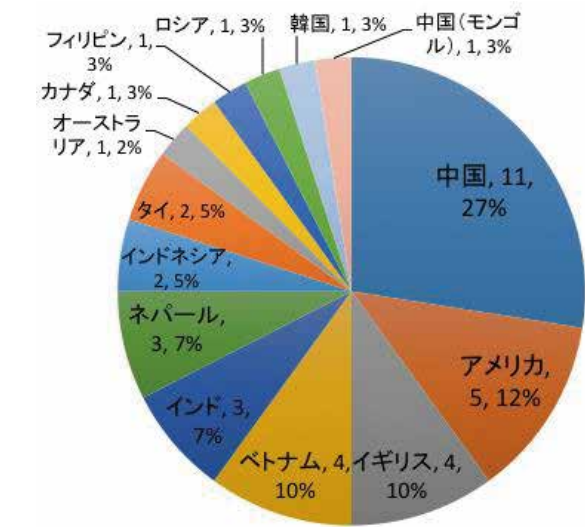
実は前夜、幸運にもエラさんとお食事を共にする機会をいただいた私たち。エラさんはビーガン(菜食主義者)である自らのために用意されたお蕎麦に手を合わせ、美味しそうに食しながら、「食」の話から、もうひとつの関心事である日本における女性の政治参画率(の低さ)まで尋ねてこられました。学者らしい視点と終始穏やかな語り口、すべての人を包み込むような慈悲深さとおおらかさ。そして、このフレンドリーさにも感激！ おおいに感銘を受けたものです。(S.T.)

日本語教室、チューターレッスンの学習者実態調査

1993 年(平成 5 年)に 4 人の日本語教師で始めた日本語事業は平成 12 年に日本語学習委員会に受け継がれて今日まで、37 名のボランティア（チューター）で運営されるまでに発展してきました。2017 年 9 月日本語学習に参加している外国人 40 名から日本語学習の感想をアンケート形式で回答を得ました（2017 年 9 月学習者数 52 名）

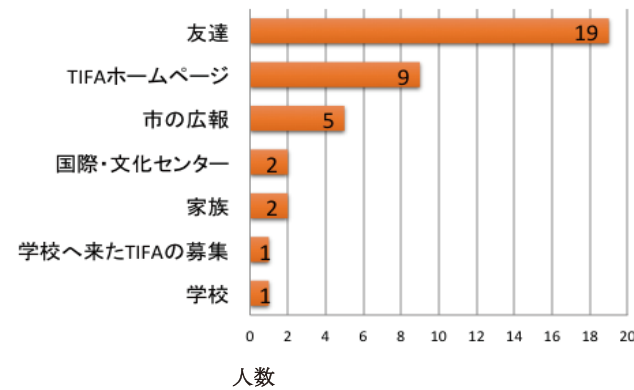
言葉は異文化相互理解の入り口。日本語ボランティア活動を通して少しでも相互理解が進み、外国人が地域住民として生き生きと生活できるようこのアンケート調査が少しでも役に立つことを願って実行しました。

(1) 国籍の内訳

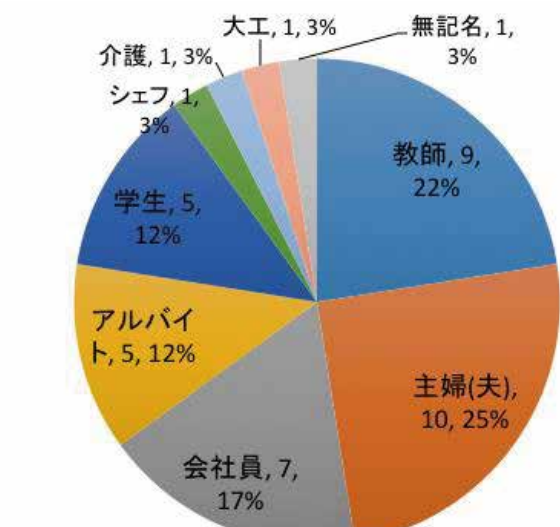


(3) TIFA 日本語教室を知った場所

日本語教室を知ったきっかけは
半数近くが友達である

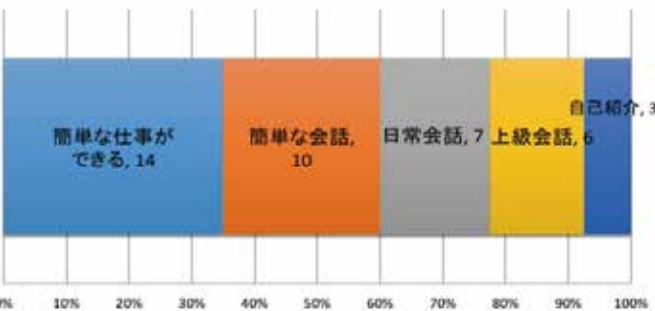


(2) 職業の内訳



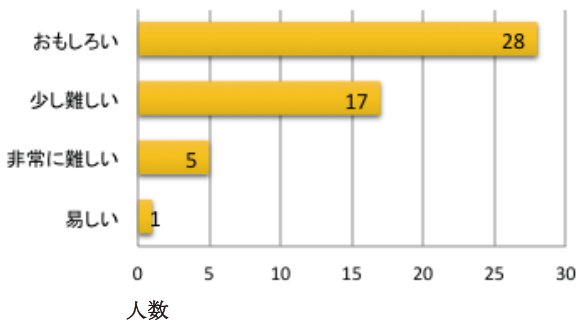
(4) 日本語レベル

上級会話者、仕事ができる人を合わせ
ると 20 人で 50%が日本語を有効に使用



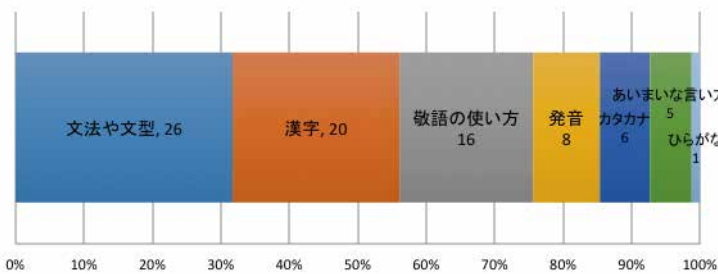
(5) 日本語学習について（複数回答）

面白いが 70%だが、少し難しいと難しい
が 2 2 人で 50%以上が難しいと感じている



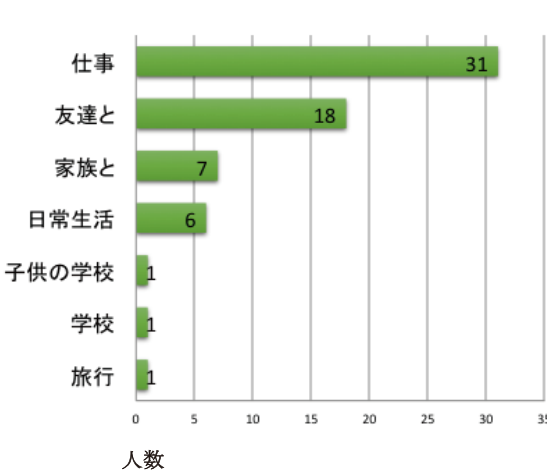
(6) 日本語の難しいところ（複数回答）

文法や漢字が難しいが 50%以上である



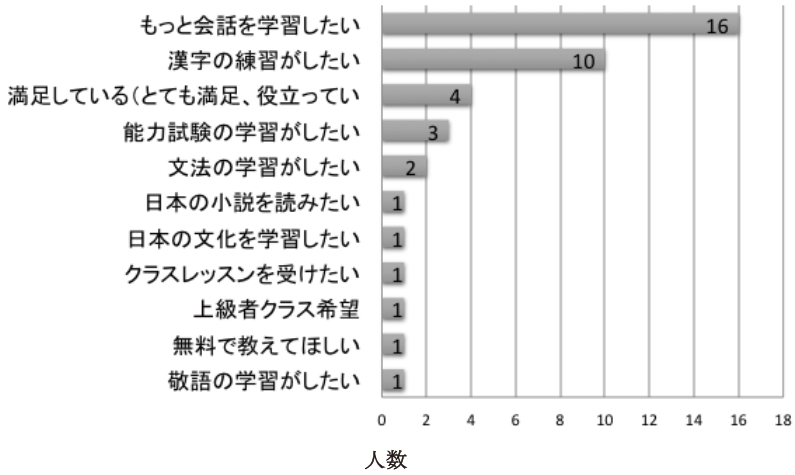
(7) 日本語を使う場所（複数回答）

82%の人が仕事で使っている



(8) レッスンに対する希望など（複数回答）

40%の学習者をもっと会話の学習を希望



宝塚に来て 1 年間、誰とも交流がなく、困ったり、大変寂しい思いを抱えたりして過ごしたという学習者の「私にとって日本語教室はとても大切な交流の場所です。」と話してくれた言葉が、今でも耳に残っています。最近では TIFA の日本語学習をきっかけに、民間大使となったり、講演会の講師に呼ばれたり地域活動に参加して自立していく頼もしい外国人の姿も見られるようになってきました。

TIFA に集まる外国人の数は外国人総数 2,873 人からすると数パーセントではありますが、一人でも「今日は TIFA に来て良かった」と思っただけであれば、ボランティア活動に参加する会員の励みとなります。

【 誰もが地域の主役になれるよう手を携えて生きていきましょう !!! 】

～多文化共生社会を体験して～

生活風景のあちらこちらでかなり目立つようになっている宝塚市内に住む外国人の声をお届けします。



日本語はたのしい！

努 格 拉 (ノ ガ ラ)

こんにちは、私はノガラと申します。主人と同じ新疆ウイグル自治区のボルタラ、モンゴル自治州から来ました。主人は日本に来て11年になり、日本の会社につとめています。私は日本に来て7年になり和菓子の会社で働いています。日本に来たばかりの時は日本語が全然分かりませんでした。日本語が話せないし、テレビの言葉も分からないし、でも相撲だけはよく分かりました。本当に暗くてさびしかったです。宝塚市国際交流協会のTIFAで週に一回日本語の勉強をして分かるようになりとても嬉しくなりました。2011年日本語のスピーチ大会で初めて努力賞をいただいて、2015年のスピーチ大会では優秀賞をいただいてとても嬉しくて夜眠れませんでした。その後2015年3月奥田先生とエフエム宝塚のラジオに出て、30分お話しをして、日本に来て幸せな気持ちでした。

それから民間大使としていろいろ小学校に行き、モンゴルの文化や生活についてお話をし、子どもたちとモンゴル相撲をやりました。とても楽しかったです。長尾小学校、ひらい人権文化センター、長尾すぎの子クラブなどです。阪神シニアカレッジでは2015年尼崎で、2017年の秋は宝塚でモンゴルの文化、生活、宗教などお話をしました。

TIFAの生活相談の花みずき会やクリスマス会にも参加しています。昨年のクリスマス会でもモンゴルのお茶碗を頭の上に乗せて踊るゲームをおしえて、みんなで楽しみました。2017年の春、ピピアめふでのモンゴルのお正月料理教室では、日本人とモンゴル人の顔がとてもよく似ていて、緊張感もなく楽しい料理教室ができてとても嬉しかったです。

本当にいつもTIFAに心から感謝しています。おかげさまで日本語がはなせるようになって、勉強すればするほど日本語ってこんなに面白い言葉だったんだな、日本語の魅力もだんだん分かってきました。日本語の勉強をまいにちのしんですごしています。家では2人はモンゴル語と日本語を混ぜて使っています。日本語ができるようになって、私は新しい事に挑戦する力がますます出てきました。前向きになんでも頑張りたいです。

これからも日本の子どもに西モンゴルの事を理解してもらいたいので民間大使などの活動を続けたいと思っています。もちろん日本でたくさんいい経験をした事をモンゴルの人々に伝えていきたいと思っています。



日本での生活

堀 内 ニ コ ー ル

8年前、人生を大きく変えたいと願い、オーストラリアから日本に移住しました。言葉の壁があるから、仕事はきっとできないだろう。日々、日本の文化や言葉の勉強に追われるだろう。きっと、ガーデニングか生花か、その他の優美な日本文化を趣味にするだろう。そんな風に思っていました。実際のところ、日本とオーストラリアは、相違点より類似点の方が多かったし、さらに驚くことに、カリスマ専業主婦にならなくてもいいということを、家族全員が当然のように受け入れてくれました。

宝塚市での暮らしは、シドニーと同じであることが多く、ここは都会的で、活気があり魅力あふれる街です。はじめの数ヶ月は、常に何かに夢中になっていて、毎日が小さな驚きの連続で、日本という国のより深い核心に迫りたくてたまらなくなるほど素晴らしくワクワクするものでした。近所の人たちは優しくフレンドリーでしたが、日

本の知識や共通の趣味なしに挨拶や天気から話題を広げていくのは、ときに難しく感じました。日本には、一日中他人と話さなくてもいいシステムがたくさんあります。オーストラリアではバスに乗りたければ手をあげてバスを止め、ドライバーに料金を払い、「こんにちは」とか「ありがとう」と言って、前のドアから乗り降ります。一方、日本のバスの精算機は本当に便利ですが、そういったコミュニケーションはありません。

また日本のカフェはくつろげる素晴らしい空間ですが、カウンターで注文や支払いを済ませ、商品の受取から返却までセルフサービスで、店員さんとのやりとりは最小限のお店が多いです。オーストラリアのカフェでは今でも店員さんがテーブルまで持ってきてくれるので、お客さんと店

員さんのコミュニケーションが自然と存在し、心地いいです。

日常会話が少なく孤独だと感じた私は、精神的な刺激としてではなく、社会的交流を求めて、もっと日本語を学ぼうと決めました。TIFAで週に1回の4年にわたる素晴らしい先生とのレッスンでは、語学だけでなく、その背景にあるニュアンスや文化も教えてもらいました。そして幸運なことに、私は同時にTIFAで英語講師としても働き始めることができました。今では自分の国の文化を皆さんと共有したり、様々なトピックで話したりと、自由に交流をしています。また、私はオーストラリアにいたときと同じようなやり方で皆さんとお話するようにしていますが、それでもこの街の素晴らしさを日々発見しています。(訳 K.O.)

Moving from Australia to Japan 8 years ago, I expected that my life would change dramatically. Due to the language barrier I would probably not be able to work. I might spend my days studying Japanese culture and language. Perhaps I'd take up gardening or 'ikebana' or some other elegant Japanese hobby.

The fact is that Japan and Australia have more similarities than differences and more unsurprisingly the fact that I was not going to be able reinvent myself into charismatic home maker came as no surprise to anyone in my family. Living in Takarazuka was much the same as living in Sydney. An urban, vibrant city that has a lot to offer. For the first few months I was in a constant state of enthusiasm. Everyday would bring small surprises and although wonderful and exciting I itched to dive deeper into the heart of Japan. On the surface my neighbours and acquaintances were kind and friendly but without knowledge of Japan or shared interests it was sometimes difficult to extend conversations beyond greetings and talk of the weather.

In Japan there are various systems that allow us to avoid contact with others as much as possible throughout the day. In Australia when we ride the bus we must raise a hand to get the bus to stop, pay the bus driver with cash or ticket and enter and exit through the front door of the bus and say 'hello' and 'thank you' when we get on and off. The cash machine in Japanese buses that gives change is truly convenient but makes communication impossible.

Cafes in Japan are also wonderful places to relax but we order and pay at the counter, pick up our food and return our tray with a minimal amount of interaction. Australian cafes and coffee shops still use table service and the conversation between staff and customers can be organic and welcoming.

The lack of daily conversation did lead to a feeling of isolation so I decided to learn more Japanese, more for the social aspects than the mental stimulation. I started studying at TIFA once a week for 4 years with a marvellous teacher who not only taught me the language but also about the nuances and culture behind the language. Since then I have been lucky to start work with TIFA teaching English. I now get to share my culture with others, discuss various topics and communicate freely. Also, I made the decision to chat with others the same way I would in Australia with mixed results but many chances to discover more about this remarkable place.

ニコールさんの原文です

多文化共生社会を海外で体験して

松本・土井アイリン海外留学修了者報告会より

宝塚市では、2001年に市内の松本安弘氏のご寄付をうけて、国際性豊かな未来を担う青少年を育むために、「松本・土井アイリン海外留学助成金」が創設されました。毎年助成金が交付されていて、2018年現在、実に194名の留学生を生み出しました。故松本安弘ご夫妻も驚かれていますことでしょう。TIFA は、帰国留学生たちの報告の場を提供しています。今年度、英国、アイルランド、中国、オーストラリアに留学していた海外留学経験者による報告の抜粋です。多文化共生社会を、異国の学術分野で、楽しみながらも身を削って経験した若者たちの声です。

★英国リーズ大学での留学を終えた大阪大学外国語学部スワヒリ語専攻の 牧野 創さん

今回、イギリス、ルワンダという環境が全く異なる2カ国で留学生活を送った事で、様々な友人や他の人ができない経験を積むことができました。2018 年からは社会人として働くことになりますが、今度は自分が社会を支える立場として今回の留学で得たものを生かしていきたいです。

★アイルランドのダブリンシティ大学留学を終えた関西学院大学国際学部の 山下陽平さん

留学は「異文化理解」という言葉に違和感を持ちました。自身が目にしたほんの一部の文化を、それをもって「理解した」と言い切るのではなく、他者に対し「分からない」という前提で接していくべきだと考えるようになりました。留学を考えている人は「ただ行った」留学にならないような準備をして欲しいと思います。この点において松本・土井アイリン海外留学助成基金への応募は、現在まで目的意識の伴った生活を送る契機となっていると感じます。

★中国北京大学国際関係学院に留学した京都大学大学院国際関係学専攻の桑原美智子さん

留学するなら現地の学生と一緒に同じ授業を受け、語学だけでなく研究面でも成果があれば良いと考え、中国現代史、中国と日本そして他国との関係についてもっと勉強をしたいと思って、国際関係学部を選びました。留学して感じたことは、日本で報道されている中国は中国の一面に過ぎず、私たちがまだよく知らないこともたくさんあるということです。実際に留学して初めて知ったことや経験できたことがたくさんあり、日本の良さも改めて感じることができました。

★オーストラリアのオーストラリア国立大学に交換留学した京都大学法学部の 松本晏奈さん

留学理由は主に3点。1点目は英語力の強化、2点目は文化多様性に富んだ環境での長期生活経験を得ること、3点目は国際政治学の分野について、国外で学んでみたいという関心と、その分野で世界有数の環境に飛び込みたい、という理由でした。留学を通じて得たものは、将来、勉学に限らず生活のあらゆる場面において、アクセスできる情報量を増やす有効なスキルとして存在しています。

留学を考えておられる方にメッセージを送るとすれば、語学は勉学に限らないあらゆる門戸を開く鍵であること、異国の環境に浸かることの効果の実感と、留学中は学内活動も課外活動も積極的にアンテナを張って取り組むことをお勧めしたいです。

～多文化共生社会をめざして～

異文化相互理解事業

異文化相互理解事業とは、宝塚市、宝塚市外国人市民文化交流協会と宝塚市国際交流協会(TIFA)の三者で以下の5事業(日本語スピーチ大会、語学講座、料理教室、啓発展、講演会)を、毎年行っています。2018 年 2 月の啓発展での三者のご挨拶と 20 数年前の発足当初から三者会に拘わっている金禮坤氏の原稿です。多文化共生社会をめざす 20 年間の想いが伝わってきます。

ごあいさつ--「啓発展」から

「多文化共生」という言葉がきかれるようになって久しいですが、宝塚市は 2017 年 8 月末現在、総人口約 22 万 5000 人のうち約 1.3%の 2939 人が、つまり世界の 62 カ国からきた外国人が暮らす、まさに宝塚は「多文化共生」の街になっています。

最近では、中国やベトナム、そしてブラジルなどの南米の国から働きにきた人、結婚を契機にきた人など、また、何かの事情で日本に住んでいる人が大勢います。この人たちは多種多様な「異文化」をもって宝塚にすみ、地域社会の一角で働き学んでいます。宝塚は昔も今も、世界のいろんな地域から渡ってきた人達が力をあわせてまちづくりをしてきたと言えるでしょう。

2018 年の啓発展ではこのあたりのことを見て頂きたいと思います。

異文化相互理解事業の 意義を語る

宝塚市外国人市民文化交流協会顧問
金禮坤

私は今年84歳です。私の子供の頃、良元村、小浜村などがあり、それらが 60 数年前に合併されて宝塚市となりました。最近、古墳調査の中で渡来人達の史跡が報告されたように、宝塚は古代から現代にかけても、どこからかたどり着いた人で構成されています。

中世の時代から、農業、植木、漁業などに携わった人々がこの地の“土の人”住宅を求めたり、あるいは商業に携わったりする人々のことを“風

の人”といたりしています。その流れてきた人々の中で特に多いのは、韓国や朝鮮の人々です。

その多くは宝塚の旧国鉄福知山線の敷設、県道尼宝線の建設、武庫川堤防の構築、阪神水道トンネルの掘削、荒神川の改修等、宝塚の都市基盤整備に関わった古からの定住者の子孫であります。私もその一人です。父の時代からは84年ではなく100年近くになる。だから“水の人”と言えるかもしれません。でも、現実には“風”資格もないのです。

ところで、最近ブラジルから来た人々の日本語教室のお手伝いをしながら思ったことですが、この人達は“風の人”と言って良いのだろうか？何と名付けたら良いのか、多くの人から意見を聞いてみたいのです。出身がどこであれ、市民として出会えば、にこやかにいつまでも話したい、そんな付き合いができる社会にしたい。

1998 年の「異文化相互理解事業」第一回総会で市長が提案されたように、私たちは、国籍が違ってみんな宝塚の市民であります。異なる文化や生活習慣を排除したり、蔑視したりするということがあってはなりません。国際化が進む今日、国籍を越えてお互いを認め合い、理解し合っていくことが住みよい社会を築いていくものと確信しております。このことは、性、年齢、出身地等が異なっても言えることであります。この様な考え方でスタートした「異文化相互理解事業」です。そんな思いや願いをもってこれまで進めてこられたのですから、これからも続けることが大事だと思っています。

この様なことがちゃんとできるなら、いくら多くの外国人がどんな国からどれだけ来られても対応できるからです。

～ 激動の東アジアと日本の対応～ ー日本の平和と繁栄をいかに守るかー

講師 田邊隆一元大使

一昨年に引き続き3回目のセミナーです。いずれの回も不安定化、複雑化する世界情勢全般に対し日本がどう対応すればよいかの提案を、冷戦後歴史的経緯から順を追って解説されました。今回は特に北朝鮮、中国など東アジア各国との関係について、直近の緊迫した情勢に日本がどう対処すべきかを深く掘り下げて講演いただきました。

世界の流れを変える6つの要素

1. 危機を起こしやすい世界経済
2. 変化に対応できない国家の統治力
3. 高まる国家間及び国家内の衝突の可能性
4. 不安定地域の拡大
5. 最新技術の影響
6. 米国の役割 (role of the United States)

GLOBAL TRENDS 2035

1. The rich are aging, the poor are not.

豊かな国、中国、ロシアでは労働人口が減少。アフリカ、南アジアなど開発途上国では労働人口は増加。教育と職業訓練が先進国、開発途上国共に重要。

2. The global economy is shifting.

弱い経済成長が継続し、開発途上国の貧困の削除にも影響を与える。2008年の金融危機の影響からは回復。しかし負債やグローバル化への疑問は続く。

3. Technology is accelerating progress but causing discontinuities.

急速な技術発展は変化のスピードを早め新しい機会を作るが勝者と敗者の違いを際立たせよう。自動化とAIは経済が適応するより早く産業の変化をもたらし、労働問題を引き起こす可能性がある。バイオ技術も医薬品業界等に大変化をもたらし、論理についても問われよう。

4. Ideas and Identities are driving a wave of exclusion.

グローバルに連結されることから社会間、社会内部で緊張感が高まろう。右と左のポピュリズムも強まり、ナショナリズムを活用する政治家も予想される。宗教的な影響力もより強まり、権威をもつ可能性もある。女性の地位向上が進むが

反発も起こり得る。

5. Governing is getting harder.

選挙民は政府に対し、より安全で、より繁栄を求めるが、財政状況、社会の分裂等多くの課題のため政府の対応は容易ではない。グローバルな課題への対応はますます困難になろう。

6. The nature of conflict is changing.

主要国間の利害が錯綜するため、更にテロの脅威、国家の統治力の弱化等のため紛争リスクは高まろう。長距離精密誘導兵器、サイバー、ロボット兵器等により、遠くからインフラを破壊でき、大量破壊兵器に関する技術もより容易に入手できよう。

7. Climate change, environment, and health issues will demand attention.

気候変動、環境問題、伝染病などへのグローバルな対応がより必要になる。

< まとめ >

これらの傾向により統治と協力がより困難になる。国内での統治も、より困難になり、国家間では1945年後のルールに基づく世界秩序が弱まり、主要国のいくつかは力によって自国の利益を確保すべく主張を強めよう。

北朝鮮の核の挑戦: 軍事的オプションと課題

1. 軍事的現状維持
2. より強化された封じ込めと抑止力
3. 米国の脅威となるミサイルを北朝鮮が保持することを拒否
4. 北朝鮮のICBMと発射装置を含む関連施設の除去
5. 北朝鮮の核と核兵器関連施設の除去
6. 北朝鮮の政権交代
7. 米軍の撤退

抑止力の3類型

- ①受動的抑止力 ……外敵の攻撃を全て迎撃してしまう。
- ②予防的抑止力 ……外敵の攻撃力を先制的に破壊する能力を保有することにより外敵の攻撃意思や、軍事的威嚇を封じ込める。(例えば、ミサイル発射装置及びその関連施設を破壊する能力。
- ③報復的抑止力 ……予防的抑止力より幅広い目標に対して攻撃(攻撃目標が限定されない。)

とりあえずの抑止力

最小限度の報復攻撃力

- 長距離巡行ミサイル(トマホーク) ……対地攻撃用、1700 基。
- 監視衛星、偵察機、空中給油機等

日本という国

1. 世界の8大文明の一つ
 2. 植民地にならず独立を維持
 3. 伝統文化を維持しつつ近代化
 4. 議会制民主主義
 5. 天然資源がないにもかかわらず教育と科学・技術力により経済大国に (アジアの諸国がフォーロー)
 6. 先駆者的役割
 - ・ 日露戦争
 - ・ 国際連盟 — 人種平等
 - ・ 第2次大戦後アジア・アフリカの植民地の独立
 - ・ G7メンバー
 - ・ ODA(人づくり、国づくり)
 - ・ 科学技術、環境、高齢化社会
- ### パワーバランスの変化、力による現状変更
- ・ 防衛体制の整備(集団的自衛権等)
 - ・ 防衛能力の大幅強化 / 抑止力の強化
 - ・ 日米同盟の強化
 - ・ Democratic Alliance の強化
 - ー 民主的価値を共有する国々との連帯
 - ー インド、オーストラリア、ASEAN、NATO、EU
 - ・ 積極的平和主義による貢献
 - ー PKO、ODA(人づくり)、地球規模の課題
 - ・ 情報収集・発信能力の強化 — 国際世論

形成

- ・経済・科学技術力の強化
- ・教育・文化力の強化

↓↓↓

安定した国際環境・国際秩序の維持
(法の統治、人権の確保、自由貿易体制等)
パワーバランスの維持

セミナーについて意見と要望

- 外務省で活躍された生の声を聴ける機会があつて満足しました。ぜひ来年も。(30 代男性)
- TV のニュースや討論番組で、漠然と「抑止力」と聞いていてもなぜ抑止力が必要で、どのような効果があるのか、考える機会もありませんでした。先生の判りやすい、基本に立ち返った解説をお聞きして、本当に平和を守りたいのであれば、「抑止力」は必須で、そのためには、予算という手立てをしないと空論になる、と強く認識しました。

子供達の世代に、世界から信頼される日本という国をつないでいくために、何か必要かを深く考える機会をいただき、本当に感謝しています。また、田邊先生は、必ず赴任先の言語をマスターしようと努められたということでしたが、言葉は国の文化なので、その国の言葉を学ぼうとする姿勢は、その国に敬意を表すること、と語られたことも印象的でした。(50 代男性)

- 大局的に世界情勢を捉えると、米国、中国、ロシアなどの大国の世界における権力の拡散や、気象条件によるエネルギー問題などさまざまな条件で、従来の世界構造が日々変化しています。その中で日本として非欧米の先進民主主義国家としての経験を活かし、主体的に世界に貢献することが大切です。また、世界への発信力に日本は欠如していると強調され、今の日本、そして未来の日本の在り方について重要な課題が見つかった様な気がします。生々しい世界情勢を理解することが出来、講演の後の質疑応答も活発に行われ、非常に有意義なセミナーでありました。(60 代男性)